

2023 年 11 月 30 日発行

人生の最晩年に塚本先生の直筆に出会う

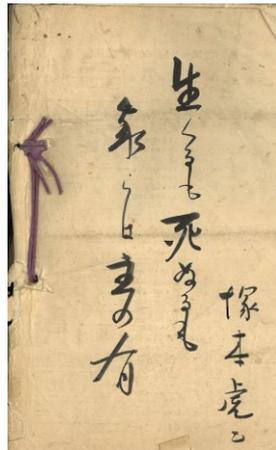
菊池 和子

私は福島県いわき市で生まれ、私の大叔母四家ケイ率いるいわき無教会の中で育てられました。塚本先生は、昭和 21 年から 37 年まで、ご病気でいらっしやれなかった 35 年を除いて夏はいわき市で過ごされました。

山下次郎先生が召されたのは 2020 年 10 月 1 日、104 歳であられました。その後、山下先生保管の岳父塚本先生の資料をご遺族から託され、教友たちと整理して今年 7 月今井館資料室に収めました。この資料は 1920 年くらいから 1950 年過ぎくらいまであります。戦争をはさんで物のない時代に、ありとあらゆる所から集めたような紙切れに書かれた塚本先生直筆のメモなど、100 年近い時の経過に、今にも崩れそうなものもあります。

まず先生が命をかけられた聖書改訳資料。「聖書知識」に掲載されたものにさらに推敲を重ねています。

次は講演会筆記。阿蘇講習会、軽井沢講習会、柏木、丸の内などでの講演の筆記です。筆記の最後に塚本先生直筆で附言、付記があり、これが味わい深いものです。一例をあげてみますと、
☆「基督教道徳の理想」マタイ 5 章 21 節－6 章 18 節の附言『絶対に生きよ。地球上で一番高い山の上に立たうなどと、ケチケチしたる小野心をすてて、大なる野心に生きよ。我等は神の子である。 虎二』



昭和 34 年いわき市の勉強室門前で。左から、塚本、四家、国府田ふじ、草野祐子、木村淑子。

☆「偽伝道者」マタイ 7 章 15－20 節の附言『私自身が羊の扮装したる虎であるかもしれない。御判断は皆様に御一任します。兎に角、実によって樹の善悪が判断出来るとは、実に恐るべき真理であります。 虎二』

先生の勉強ぶりが一目瞭然なのが先生自ら表紙をつけて「勉強ノート」と書かれたノートです。毎週の「聖書研究会」の準備のために勉強された塚本直筆の記録もあります。先生ご自身がこれほど勉強されたばかりでなく、「ギリシャ語の組」（最後は O 組、私も O 組の一人）を作られて若い人たちにも勉強させました。しかし先生は「聖書学者になるな — ギリシャ語の勉強で聖書がわかるなんて考えてはいけない」とおっしゃいました（「聖書知識」350 号）。「塚本虎二著作集」の輪読会でも感じることは、先生の結論は学問を飛び越えて信仰で飛躍なさることです。

いわき無教会ではじまった私の無教会人生の最晩年に、塚本先生の資料の整理をさせていただいた幸せを感じ感謝はつきません。

（きくち かずこ 元日永聖書集会）

目 次

表紙・巻頭言

目次・内村鑑三の言葉

表紙について・発行趣旨.....2
第 35 回無教会全国集会 2023.....3
誠実 謙虚 相澤忠一さんを偲んで.....5
相澤忠一先生と東京光の家.....6
第 44 回内村鑑三研究会報告.....7
無教会研修所について.....9
塚本虎二先生記念講演会.....10

矢内原忠雄宛書簡のデータベース化に 当たって.....11
学校・学寮だより.....12
各地からの報告.....15
定期集会・特別集会のお知らせ.....16
事務局便り.....19
維持会員募集のお知らせ・編集後記.....20

内村鑑三の言葉

北海道鱈漁業の景況

磯鱈漁は冬至より小寒の内とす 其危険なる実
に聞く者をして戦慄せしむる程の業なり
昔時は父子同時に出づる時父子舟を異にし父若
し難破に罹り溺死するとともに子は存して家を保つ
又沖に出づるに際して必ず金員及び鑑札を所持し
死体漂着の時の用となす

選者注：『大日本水産会報告』4号（1882年6月）、『内村鑑三全集』1巻、14頁。明治15年1月31日から1週間、鱈漁業視察のための祝津村出張に伴う「漁夫の言」を「随聴随筆」した調査報告書。21歳の若きキリスト者の開拓使官吏・内村は、1月下旬から2月中旬の「シエン」という厳寒の鱈漁の最盛期に、命を賭して漁に向かう漁師たちの生きる厳しさに心を打たれたことであろう。『聖書之研究』116号（「天然号」、1910年1月）に、「神と人と天然とに就て学びしなり」の付言とともに再録された。

（選：NPO 法人今井館教友会監事 小林孝吉）

○表紙について

『今井館ニュース』第57号巻頭言は、いわき無教会を支えた大叔母四家ケイを通じて丸の内集会に通われた菊池和子さんが、塚本虎二の資料についてお書きくださった。塚本の揮毫は、柏木時代の『コリント後書研究』講演筆記録裏表紙に書かれたもので、「生くるも死ぬるも我らは主の有」。菊池さんは、恩師の直筆を含む貴重な資料を、きれいに整理されて、この度今井館に収められた。（C.Y.）



『今井館ニュース』発行趣旨

NPO 法人今井館教友会は、キリスト教の精神に基づいて、今井館を維持・管理・運営し、内村鑑三（無教会の提唱者）及び彼につらなる者たちの広範かつ多面的な思想と活動を自ら調査・研究するとともに、他の個人と団体による調査・研究をも奨励・支援し、それら自他の調査・研究成果の社会一般への普及に努めて、正義と隣人愛を基調とする平和的な社会の形成と発展に寄与することを目的とする（定款第3条）。その目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として今井館ニュース発行を通じ「内村鑑三及び彼に連なる人々の思想と活動を調査・研究・発表する事業」を行うものとする（定款第5条3項）。